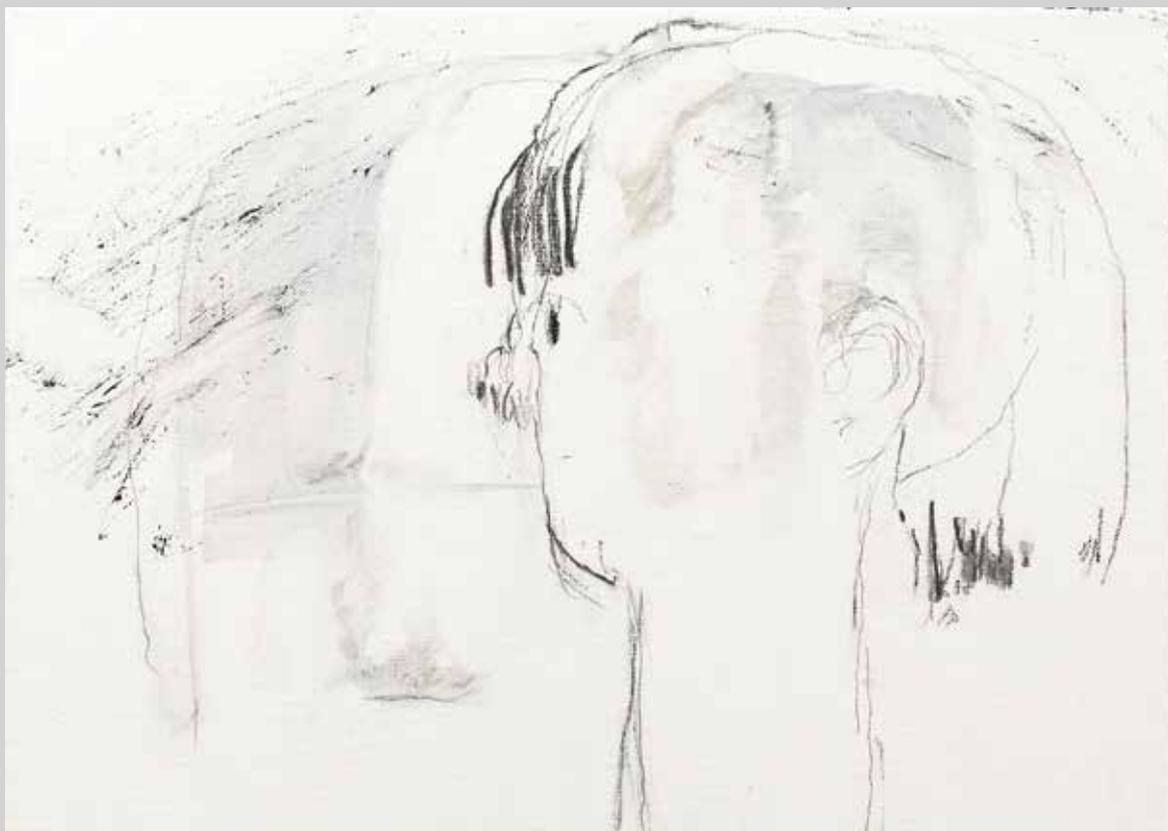


土井波音展
汽水の幽霊



「Untitled (構想段階のコラージュ)」土井波音



《東に生まれて》2024 (240×330×20 mm キャンバスにペンキ、アクリル絵具、鉛筆、木炭) 渋谷七奈

渋谷七奈展
光源の二輪

2024.7.13 土 - 9.1 日 塩竈市杉村惇美術館

開館時間 10時～17時 (最終受付 16時 30分) 月曜休館 (7/15・8/12 は開館、翌日休館)

展示観覧料 (常設展込) : 一般 500 円 大学生・高校生 400 円 メンバーシップ・中学生以下無料 ※各種障がい者手帳を提示された方は割引。団体割引有。

問合せ : 塩竈市杉村惇美術館 (宮城県塩竈市本町 8-1 電話 022-362-255 <http://sugimurajun.shiomo.jp/>)

主催 : 塩竈市杉村惇美術館 共催 : 塩竈市 助成 : 公益財団法人カメイ社会教育振興財団 (仙台市)

後援 : 河北新報社 朝日新聞仙台総局 毎日新聞仙台支局 読売新聞東北総局 tbc 東北放送 仙台放送 ミヤギテレビ khb 東日本放送 エフエム仙台 BAYWAVE78.1FM
宮城ケーブルテレビ株式会社 仙台リビング新聞社

土井波音展 汽水の幽霊

土井は、幼少期から“全てのものが生きてるように見える”という感覚を抱いてきたと言います。その感覚は生命や物質がもつ有機性、有限性の枠を越え、彼女にとっての「生命の存在」という境界を曖昧にしています。そうした自身の経験をもとにサウンドインスタレーションを主な手法とする作品を制作し、既成概念に向き合い、現実の拡張を試んでいます。

本展は世阿弥による能の演目「融（とふる）」を参照したサウンドインスタレーションとして表現します。作中で源融（みなもとのとおる）は、憧れた塩竈浦の風景を模した庭を京都の自邸につくり、幽霊となってもなおその風景に執着します。土井はかつて都会や異国の地へと憧れた自身を源融に重ね、ここ塩竈を舞台に、源融のように幻想に取り憑かれた幽霊と化して作品を制作。自身が日々往来した石巻ー塩竈ー仙台を結ぶ仙石線、その中間に位置する塩竈を、田舎と都会を繋ぐ境界、そして過去ー現在ー未来という時間軸と想起し、塩竈をふたつの幻想に挟まれた現在とも位置付けます。自身の記憶にもとづき採取した音をはじめ、旋律、語り、環境音、リズムといった様々な要素が重層的に展開されます。鑑賞者の鑑賞後の動きも構成要素となる本作は、観客の想像力を伴って情景を浮かび上げらせることで味わう、能の鑑賞と通じるところがあると言えるでしょう。

本展は、幻想が「幸福と共存する現実への手がかり」となることを目指します。新たな感覚が鑑賞者の日常へと地続きに浸透し、今を生きるための内なる力を引き出す機会となることを願っています。

どい なみね

土井波音 Namine Doi

アーティスト。1997年宮城県石巻市出身。2019年、ロンドンのUniversity of the Arts London Foundation Diploma 修了後、石巻に戻り2023年5月まで石巻のキワマリ荘にて「momo」を運営。その後、現代美術・音楽分野を中心に活動を続けている。自らの実体験や幼少期からある超自然的感覚をきっかけに、国内外の民話、童話、怪異などをリサーチする。シュルレアリスムの観点からサウンドインスタレーションとして表現することで摂理や既成概念を曖昧にし、現実の拡張を試みる。<https://naminedoi.myportfolio.com/>

渋谷七奈展 光源の二輪

渋谷は現在、死者への弔いと記憶のあり方について思考し、制作を行っています。とくに「ネアンデルタール人が死者に花を供えていた」という言説から、死者を弔い送るという行為の普遍性を問い続けています。渋谷の制作は、特徴的な線の揺らぎや余白を活かしながら日々の歩みや思考を紙やキャンバスへとしたため、存在を確かめる行為のようでもあります。より原始的な感覚に伴うような近作は、絵や言葉、文字といった枠組みを越えて、普遍的な問いを追求し続けています。

本展では、東日本大震災にまつわる自身の記憶を題材に作品を制作します。発災当時、限られた水や食料を探し求め、渋谷と母が暮らしていた多賀城から塩竈まで「生きていくこと」のためだけに夢中で自転車走らせた、母とのかけがえのない記憶がもとになっています。ドローイングと絵画作品に加え、宮城・東北を題材とした詩のリサーチや歌人への取材で出会った言葉や詩の引用を行い、自身の作品と交差する表現を試みます。

時を経て渋谷の母は他界し、その時の姿が頭に鮮明にこびりついていると渋谷は言います。時に、忘れたい過去を思い出すことや、亡き人を思うことは容易ではありません。作家自身の親密な記憶にもとづく本作に触れることが、誰もが隣り合わせで普遍的な生と死、その日々の尊い記憶の喚起と安らぎとなることを願っています。

しゅや なな

渋谷七奈 Nana Shibuya

画家。1994年宮城県多賀城市出身。2019年東北芸術工科大学大学院芸術文化専攻芸術総合領域修了。同学では日本画を学び、現在は山形に拠点を置いて活動。日々の断片をとどめるようにドローイングを重ね、大切な記憶と情景を描き出す。近年では死者への弔いと記憶のあり方について思考し、制作を行う。<https://shibuyanana.com>

関連企画

すべて当日の展覧会チケットでご参加いただけます。
※メンバーシップ・中学生以下無料

ギャラリートーク 土井波音・渋谷七奈

2024/7/13 日 14時 企画展示室

・要予約／定員15名

クロストーク 永岡大輔 × 土井波音

2024/7/27 日 13時～15時 サロン

ゲストにアーティスト・永岡大輔氏をお迎えします。
・要予約／定員15名

クロストーク

小金沢智 × 近江瞬 × 渋谷七奈

2024/8/3 日 13時～15時 サロン

ゲストにキュレーター・小金沢智氏と歌人・近江瞬氏をお迎えします。
・要予約／定員15名

土井波音ライブパフォーマンス

2024/8/25 日 13時 大講堂

展示コンセプトをもとに、作家自身も鑑賞者と同様、展示期間を通して体感した幻想を元に、あらためて現在の塩竈の風景の見え方を表現します。
サポート／武山泰仁氏（ベース）



《食事が運ばれてきそうもない食卓で》Kinjinhos, 2024 土井波音



「ドローイング (言葉の練習)」
(260×130 mm 紙にアクリル絵具、鉛筆、木炭)
渋谷七奈



若手アーティスト支援プログラム「Voyage」は、これからの活躍が期待される若手アーティストの可能性に光をあて、新たなステップを提供することを目的に、展覧会を中心としてトークやワークショップなど多様な表現の機会を設ける事業です。これまで、多くの人々にとって新たな才能や感性と出会える場となるよう毎年度ごとに異なる作家と共に取り組んできました。展示制作にかかる費用の一部のほか、企画や広報などに関する支援を通して、地域にゆかりのある若手アーティストの意欲的な表現活動をサポートし、発表の場を提供します。今年度の特別審査員は、石倉敏明氏（人類学者・秋田公立美術大学大学院准教授）、小田原のどか氏（彫刻家・評論家・出版社代表）、鹿野護氏（デザイナー・東北芸術工科大学教授）です。

問合せ：塩竈市杉村惇美術館 宮城県塩竈市本町 8-1 022-362-2555 <https://sugimurajun.shiomo.jp/>